

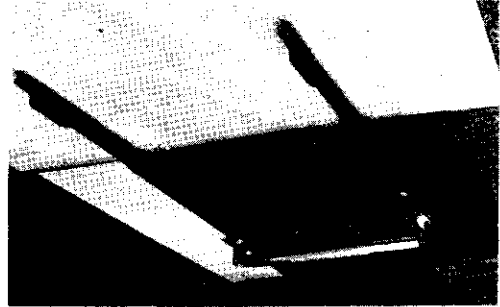
新資材利用設計研究(継 続)

鮫 島 正 登 美

1. 目 的

近時住宅については従来からの木造建築のほか鉄筋、ブロック、プレハブ等、種々雑多な建築方法を使用するようになり、これに伴って室内用具についてもその使用材料や、室内構造にもいちじるしい変化をきたしつつある。

これらの新資材と木材を併用した生活用具の設計研究は以前から継続していたが、本年度はスチール材の高度利用として棚付き食堂テーブルを取り上げた。



2. 概 要

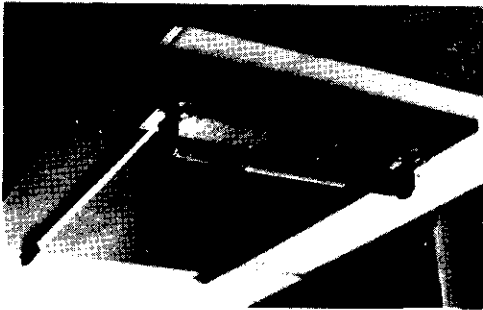
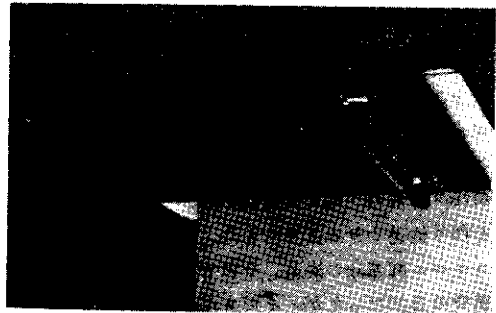
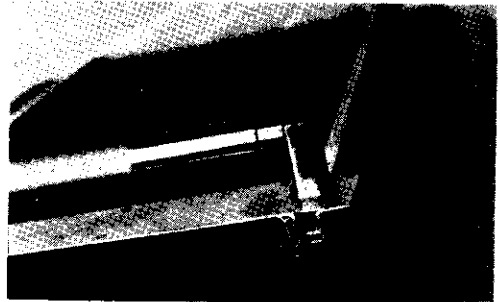
1-1 設計意図

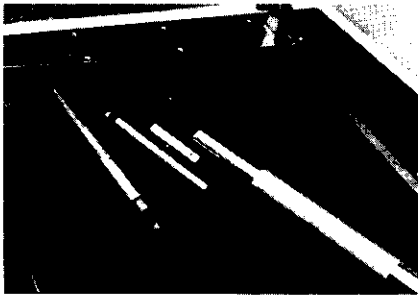
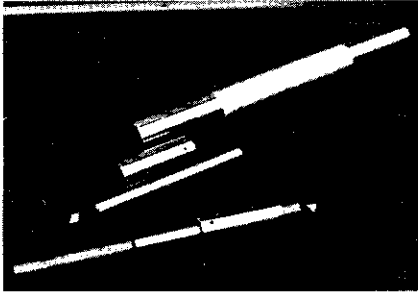
小住宅、小家族向のキッチンルーム(2.5坪程度)を想定し、従来から考えられていた、食器棚に折たたみ式のテーブルを取付けたものと、発想は同じだが、テーブル使用時の脚、また、使用しない時の外見等を考慮したものとする。

1-2 スチール脚のシステム

別図または写真でもわかるとおり、テーブルとして使用しない時、脚はデザイン上目ざわりとならぬよう、甲板内に内蔵されるようにした。甲板内に脚を収納する時は、甲板面を一寸持ち上げ、その後ハンドル(取手部分)を回しながら脚を動かして、そのまま甲板内に収納する。

- 写真1. 2. 3. 4はスチール脚が甲板内に内蔵された時を想定したもの。
- 写真5. 6はハンドル(取手部分)の分解で、ストップピンの構造を写した。
- 写真7. 8は脚として使用する時の常態とストップピンの常態を見たもの。





1-3 食器棚の利用

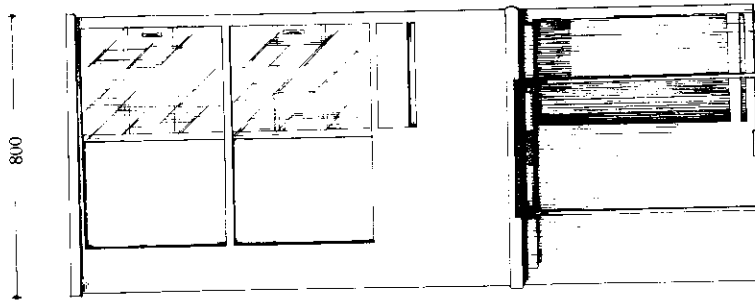
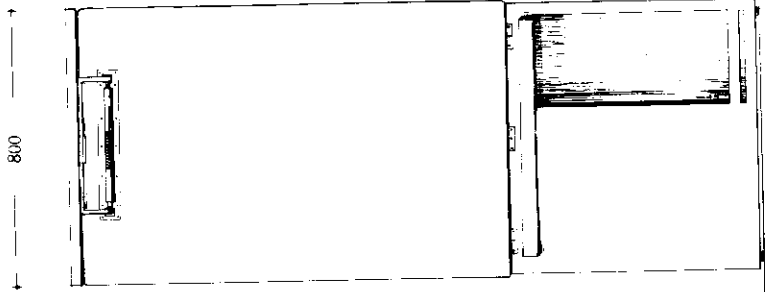
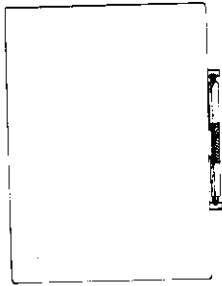
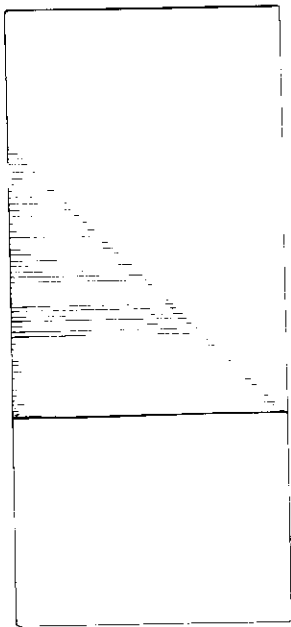
食器棚は前記4、5名家族が、日常食事とき使用する食器類の棚で、外に折畳椅子4～5名分及び、クリーナ等の収納かしょも用意した。

3. 成 果

上記のものを総合すると、テーブルとして使用する場合と折畳んだ場合と、わずかのスペースでも有効に他の目的に利用することもでき、輸送荷作りは80cm×61cm×2mの一本で食器棚からテーブル、椅子まで、荷作り輸送できるようにした。

スチール脚部分の構造、システムが、この研究の目的だったが、まだまだその他付属部分、木厚等、研究の必要を認める。

棚付き食堂テーブル



ホールキャスター